

一

問一 傍線部①の次の二行に正解選択肢と同じ内容の記述があります。傍線部の前後を落ち着いて読めば正答できる問題です。

問二 慣用句の問題です。1は、「一刻も早くそうしたい気持ちで落ち着かないこと」です。この場面のアズの気持ちが焦っている状況を考えると、この語句を知らなくてもオを選べると思います。2は、走ってきた直後の様子を表している語句なので、「激しい息づかい」を表すイが正解です。

問三 ヒントは設問文の「ただし、同じ記号は一つしか選べません。」です。Aには、アとオの両方が入る可能性があります。Bには、オしか入りません。Cは、ライオンの描写に注目してください。「一頭のライオン」「りっぱな～顔をしていた」とあり、イの「堂々と」とはほど遠い様子です。したがって、ウが正解です。

問四 傍線部②のあとのアズの言葉「ママとけんか～閉じこもってたんだよ。」に注目してください。アズには学校を休み続けた理由があるのに、母親にいろいろ言われてしまった、そのような状況は、ウの正解選択肢の気持ちと重なります。

問五 傍線部③の前後を読むと、「アズはだれに向かっておこったらええのかわから」ないから「ぶつかってばかり」ということがわかります。つまり、「ぶつか」る状態は、問四の答えとも関係しますが、「バクハツ」の状態を意味し、傍線部③の意味と同じ、と考えることが出来ます。この「バクハツ」については少し前に、アズの「またやっちゃった」という言葉があり、続いて「アズはみんながバクハツと言ってるのを知ってたんやな」という唯人の気持ちを表す言葉もあります。以上を考えて、正解はアとエとなります。

問六 情景描写について全体を通して考え、解く問題です。正解選択肢のアの、「よるべのない」という言葉は、「頼りになるものがない」という意味です。この言葉がわからなくても、唯人とアズは帰る場所がなく居場所がない不安や孤独を抱えていることが読み取れていれば、アを選ぶことが出来ます。イは「悩みのはかなさ」、ウは「お互いの問題に関わらないようにしている」エは全文が本文の内容に合致していません。

問七 本文全体を読むと、唯人とアズはそれぞれの事情を抱えていることがわかります。傍線部⑤の少し前の、アズの事情を知った唯人は「おれかてひとりぼっちやで」と言い、それを聞いたアズは思わず涙をこぼします。お互いに孤独を抱えているのだと気づいた瞬間です。これは傍線部の「重なった」ということだと考えることができます。これらの事を踏まえて、指定字数内でまとめましょう。

二

問一 文章と図を関連付ける問題です。イやエという誤りが見られましたが、本文の空欄Iに続く「しかし、実際に日本の都市で～」という一文や、アイコンの中の絵と言葉をヒント

として考え合わせてください。

問二 文章の筋道をつかむ問題です。正解選択肢のアは本文中の表現をそのまま利用していませんが、傍線部のある形式段落全体から、筆者の問題意識を読み取ってください。

問三 文章の筋道をつかむ問題です。2行前に「ひじかけタイプの仕切りがあるベンチ」とあります。

問四 文章の筋道をつかむ問題です。まずは「原っぱ」と「遊園地」とが対比関係にあることに注目しましょう。筆者は、自由度の高い空間モデルである「原っぱ」を肯定的にとらえています。空欄Ⅱは、前の行の「本来、公共空間も」から丁寧に読んでいけば、自由度が低く（または自由度がなく）、筆者が好ましく思っていないモデルである「遊園地」を当てはめることができます。空欄Ⅲは、グラフィティの持つ独自性を読み取り、「原っぱ」を当てはめます。空欄Ⅳは傍線部と離れていますが、「本文全体をしっかりと念頭に置いて読む」という姿勢で問題に取り組んでください。

問五 文章の筋道をつかむ問題です。傍線部は比喻表現になっていますが、問四でつかんだ「原っぱ」と「遊園地」との対比関係を利用すれば解けます。

問六 言葉の知識に関する問題です。Cは「できる」という意味を表しています。他は、「される」という意味を表しています。

問七 文章の筋道をつかむ問題です。空欄ウの前後に書かれている「ベンチをなくせば」「つまり、何も置かない」という言葉に注目します。

問八 本文の内容についての正誤を判定する問題です。本文全体から正誤を判定できる箇所を探さなければなりません。問四でも触れましたが、本文全体を念頭に置くことで、該当箇所を見つけやすくなります。イとエに誤りが目立ちました。イは「ピシャソン」に注目します。エは本文最後から4行目「岡本の時代に～」に注目します。

三

②「拝借」は、言葉自体を知らないために誤ってしまったと思われる解答が見られました。いろいろな文章に触れて言葉の知識を増やすことも漢字の練習です。③「計(らう)」は、「図」「測」という誤りが見られました。訓読みの漢字の書き取りもよく練習してください。あわせて、同音異義語・同訓異義語の知識を増やしましょう。